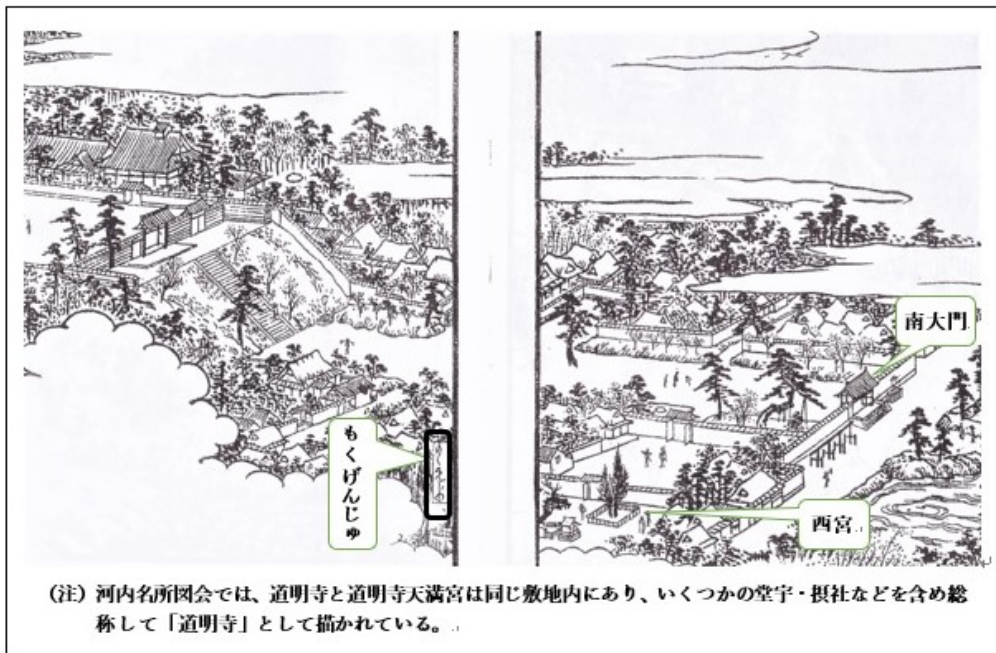


10. 河内名所図会を訪ねて その四 道明寺

～白太夫(しらたゆう)をさがせ～

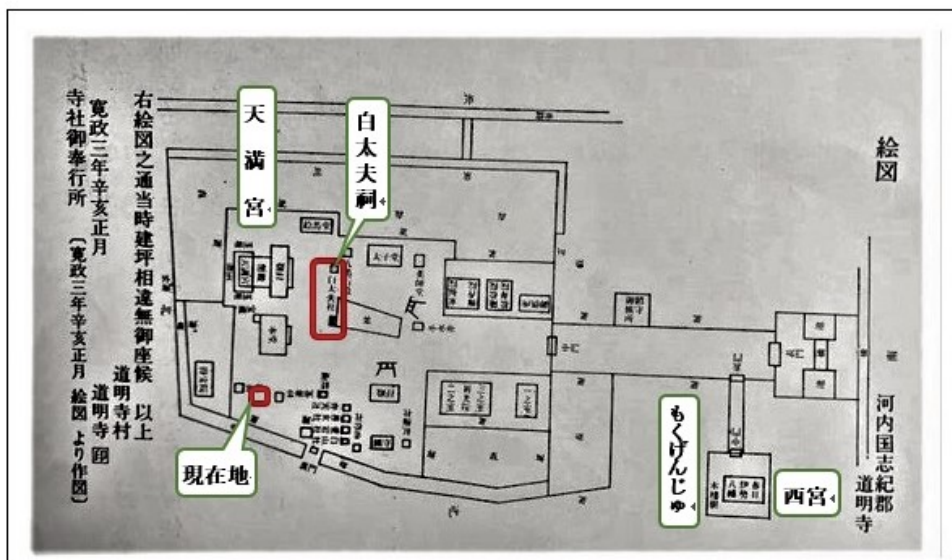


もくげんじゅ

河内名所図会の「道明寺」をみると、南大門の北、東高野街道沿いに“もくげんじゅ”という文字が読み取れます。“もくげんじゅ”とは、「木槵樹」という木で、秋には、黒くて丸い小さな実をつけます。

この木の生えている西宮は、謡曲「道明寺」の舞台になったところです。謡曲「道明寺」は、夢のお告げで道明寺にやってきた相模の国の僧尊性が、一人の老人に出会い、この木槵樹は、菅原道真公が五部の大乘経を埋めた経塚に生えたもので、その実を 108 個集めて数珠を作り、念仏を百万遍唱えると極楽往生ができる、と教えられる物語です。

この、老人こそが、「白太夫」だったのです。白太夫は、もともと、伊勢の神官で道真公の誕生にかかわり、以後、おもり役として常にお傍にあり、道真公の最期をもみます。若いころから、白髪であったのでこの名があると言われています。



白太夫はどこに

さて、再び河内名所図会に目を通すと、「白太夫祠、境内にあり」と書かれていますが、その場所は特定できません。 いったいどこにあるのでしょうか。

見つけました。寛政 3 年(1791)に道明寺から寺社奉行に提出された書類の中に、境内の絵図がありました。それによると、拝殿のすぐ前の、絵馬堂と参道の間の部分に置かれていたようで、やはり、道真公のすぐおそばにいたことになります。

道明寺を舞台にした、もう一つの作品「菅原伝授手習鑑」では、この白太夫は、道真公が名付け親となった三つ子の兄弟、梅王丸・松王丸・桜丸の父として登場します。延享 3 年(1746)初演の「菅原伝授手習鑑」は、人形浄瑠璃や歌舞伎の演目として、大変人気を博した作品でした。この白太夫祠も多くの人々が、お参りされたのではないのでしょうか。 では、現在、白太夫の祠はどこにあるのでしょうか。きっとおそばにいるはずなのですが…。明治になって、引っ越しをされたようです。道真公からちょっと遠くになりましたが、お声がかかれば、聞こえる距離です。備前焼の狛犬さんがお守りしています。道明寺天満宮にお参りの際は、ぜひ、探してみてください。(2019/12 小田島)



(参考) 秋山離島編、丹羽桃溪画、堀口康生校訂『河内名所圖會』 『藤井寺市史』(第 5 巻)『一冊でわかる歌舞伎名作ガイド 50 選』(成美堂出版)